県内公立小中学校の教育事情 ①
代わりの先生が来ない

香川県教職員組合　安藤　康司

「困った、困った。先生が見つからない」。産休に入った先生、病休をとった先生の代わりの先生が来ないということはよく起こります。４月の初めは見つかるけど、学期が過ぎるにしたがって見つかりにくくなります。先生がいないと子どもや他の先生も困ります。代替の先生が見つからないと現場はどうなるのでしょうか？

小学校では、教頭先生が学級担任の代わりをすることという話がありました。教頭先生は学級の子どもが帰るまでは学級のことで精一杯です。途中で他の先生から分掌に関わる相談をされても「今は無理。後で」となってしまいます。教頭としての仕事は一段落ついてからになります。大変です。

中学校では休まれた先生と代替の先生の教科が違ったり、全く見つからなかったりする場合があります。そうすると、同じ教科の先生が授業を持つということになります。大きく授業時数が増えるということもあります。また、学級規模が大きく、代替の先生が複数いない状態になると時間割変更しても授業が組めなくなります。その学年はある曜日に授業時間をカットして生徒を早く帰すこともありました。

学校教育は教職員も児童生徒も共同と支え合いが必要です。先生が必要な数より少なくなると子どものことで相談する、話し合う時間も少なくなってしまいます。

県教委は来年度の新規の採用者を多く増やすとしています。それで、解決するとは言えません。先生になりたいと採用試験の受験者が増えることが必要です。先生が足りないときに「助けに来てくれる」人を確保しておくことも必要でしょう。そのためにも、魅力ある働きがいのある学校現場が必要です。

お詫びと訂正

民主香川社

☆ 前々号の1995号2面（7月21日号）「原発なくせ金曜行動」のタイトルが「12年半」となっていました。正しくは「12年」です。

☆ 前号の1996号2面（7月28日号）「自衛隊護衛艦入港に対する緊急抗議行動を展開」の記事で、掃海母艦「うらが」の入港は5月でした。お詫びして訂正します。

県内で次々と自衛隊イベント

７月から９月までの間に、自衛隊のイベントがこんなにも沢山、県内外で行われます。市民生活の中に日常的に自衛隊が入り込んでいます。

◎７月13日(土)14:00～16:00	高松定期演奏会 レクザムホール	
◎７月13日(土)～15日(月)	護衛艦「あさぎり」艦艇広報	サンポート高松港
◎７月17日(水)9:30～16:00	護衛艦「あきづき」艦艇広報	サンポート高松港
◎７月20日(土)	善通寺駐屯地花火大会	
◎７月21日(日)	あやうたサマーコンサート	丸亀市綾歌総合文化会館
◎７月27日(土)10:00～16:00	高松イオン 開店17周年記念祭」	高松イオン １階店舗
◎８月25日(日)	カマタマーレ讃岐10周年ｲﾍﾞﾝﾄ	ピカラスタジアム(丸亀)
◎９月１日(日)	キッズミライフェス	サンメッセ大展示場
◎９月７日(土)	練習機TC 90 体験搭乗&基地見学	海上自衛隊徳島航空基地
◎９月14日(土)	JAふれあい祭り	ハイスタッフホール(観音寺)

佐渡のトビシマカンゾウ

政治資金規正法違反の告発（上脇教授）
検察審査会　平井議員の不起訴不当

裏金事件は、２０２２年11月の「しんぶん赤旗」日曜版のスクープを、神戸学院大学の上脇博之教授が「大変重要な指摘」だとして調査をすることで発覚しました。

上脇教授は、平井議員が代表の「自民党香川県第一選挙区支部」が２０２０年に開催した政治資金パーティーについて、パーティー券を購入したのに出席しなかった人の分の金額を、寄付とし収支報告書に記載しなかったのは政治資金規正法に違反すると主張して、同年11月に告発状を高松地方検察庁に提出しました。高松地検が23年10月に嫌疑不十分で不起訴としたことに対し、上脇教授は「この事件が不起訴になるようであれば、同じような手口が全国に蔓延する恐れがある」として高松検察審査会に申立てました。

審査会は24年７月10日、「不起訴は不当」を議決しました。理由で、「２万円のパーティー券を10枚購入するよう依頼しながら、最大３人しか参加しないよう明記されていた」と上脇氏が主張する企業向けの文書について、「検察は捜査を尽くすべきだ」と指摘。これを受けて検察は再捜査を行いますが、再び不起訴となれば、国民目線の議決との乖離が浮き彫りとなります。

また、２０２０年に平井議員自身が代表を務める政党支部に一千万円寄付して所得税の一部を控除される税優遇を受けたことも報道されています。自ら代表を務める政党支部への寄付は「抜け穴」として放置されてきたものを悪用したものです。平井議員の「合法だ、他の議員もやっている」という発言通り他にも多くの自民党議員による同様の手口が明らかになっています。課税されるべき裏金を原資に寄付控除を受けていたとしたら二重の税逃れであり、全議員の徹底調査を求めるものです。

日本共産党は、自民党の金権腐敗と利権政治を一掃し、政治資金パーティー収入も寄付とみなすことで、パーティー券購入も禁じる企業団体献金全面禁止と政党助成法廃止の法案を提出し続けています。

勇気りんりんエッセイ
白川よう子

四国ブロック国政対策委員長

能登半島地震から７ヶ月が経とうとしている。四国３県の２次募金を預かり能登に向かった。今回は西日本豪雨災害の時に、西予市にボランティアで入っていた菅由美子さんらが、私たちの能登行きに合わせて、超党派の被災地のバスツアーを計画してくださった。菅さんは今回の震災後ずっと珠洲市でボランティア活動を続けているが、ボランティアがあまりにも足りない状態が続いている。

揺れや津波、土砂崩れなどによって倒壊した家屋、下敷きになったまま放置されている車。珠洲市を移動中は重機もほとんど見かけなかった。万博などに引っ張られ、建設作業員が確保できず、来ても賃金格差ですぐに帰ってしまうとの話だった。

海岸部の各地では４ｍもの地盤隆起で海底が露出した姿を見た。砂浜まで降りてみると、私の背丈よりも高い位置まで隆起した堤防には、牡蠣や鮑などの貝殻がギッチリ付いていて、この場所がつい最近まで海の中だったことを物語っていた。

「能登原発」の立地予定地だった珠洲市。電力会社の金にモノを言わせた買収による住民の分断などを乗り越え、原発建設阻止の住民運動を進めてきた地元の方からお話をお聞きし、日本のどこにも原発はいらないの思いを強くした。

輪島市の仮設住宅では、支援物資を届けながら聴き取り活動を行った。避難所や農業用のビニールハウスで自主避難を続ける方など、まだまだ仮設に入居すらできない方も含め、この国の政治の貧困を目の当たりにした。

ＨＰを刷新

『日本共産党香川県委員会』のホームページのデザインを刷新して、見やすくしました。ＰＣでの閲覧がおススメですが、こちらのQRコードを読み取ってスマホからでも見ることができます。

県委員会に関連する「時事ニュース」や「民主香川」などの更新も行っています